



CONTENTS

ポスト戦略研究のMSM事業 01
 ぶれいす東京 2010年度総会・活動報告会 02
 バンフレット「職場とHIV/エイズ—治療の進歩と働く陽性者—」ができました！ 03
 「239人のHIV陽性者が体験した検査と告知」～冊子の発行とシンポジウムの開催～ 04
 NLGR+ 04
 部門報告(2011年4～6月)..... 05
 新人ボランティア合同研修の開催について 08

「ポスト戦略研究のMSM事業」

エイズ予防のための戦略研究・課題1

「首都圏および阪神圏の男性同性愛者を対象とした HIV 抗体検査の普及強化プログラムの有効性に関する地域介入研究」とその後

市川 誠一 (厚生労働省エイズ予防のための戦略研究・研究リーダー/名古屋市立大学看護学部)

戦略研究の主要目標(検査件数の倍加/エイズ発生の25%減少)を達成するために、1.ゲイ・バイセクシュアル男性(MSM)に訴求する啓発プログラムの開発・普及、2.啓発により受検者数が増大しても対応できる検査体制(社会的な偏見、差別を受ける可能性が高いMSMには、セクシュアリティに配慮した検査・相談体制)、3.HIV検査受検の不安軽減を図る相談体制や検査で陽性が判明した受検者への相談・支援の確保を計画とした。

研究は、MSM や HIV陽性者等で構成される NGO/NPO が中心となり、MSM の利用する商業施設やゲイメディア等とのネットワーク構築、MSM に向けた予防・検査・相談・治療に関する情報提供、MSM を積極的に受け入れる検査機関の確保とその広報、HIV陽性者への支援体制(電話相談やピアサポートなど)の向上に取り組んだ。

首都圏で構築された成果

MSM を対象とした支援情報を紹介する Web サイト「HIVマップ」は、予防、検査、相談、治療などの「お役立ち情報」を集め、PC/携帯に対応した利便性の高いサイトとして、活用の向上が図られた。新宿、新橋、上野、浅草、渋谷、横浜のゲイコミュニティや保健所等の検査機関に啓発資材を普及させるネットワークを構築し、2009年から AIDS 発症を予防するためのキャンペーン「できる！」を展開した。

一方で東京、神奈川、千葉の保健所等の HIV 検査担当者向け研修会(セクシュアリティ理解の講座や MSM 対応の模擬体験など)を実施し、MSM の HIV 検査受検促進の受入に応じた保健所を「あんしん HIV 検査サーチ」にて広報した。これらの保健所(37 機関)は、戦略研究の定点検査機関として検査件数、MSM 受検者割合などが調査された(分析中であるが MSM 受検者割合は2倍程度に増加していた)。

阪神圏で構築された成果

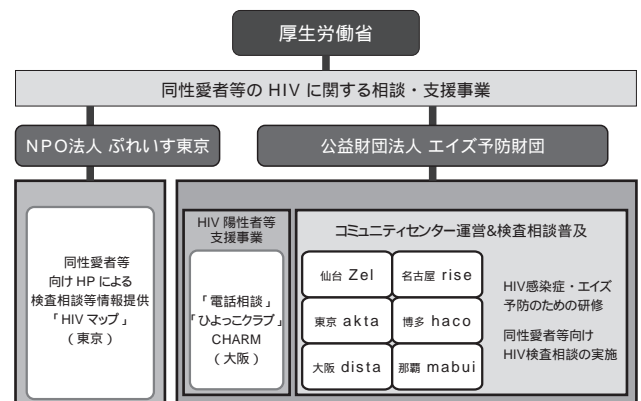
STD クリニック 7 機関での検査キャンペーンは、2009 年から 5 月～12 月末の長期実施とし、Web、商業施設、

啓発イベント「PLuS+」を通じた広報により受検促進を図った。「PLuS+」は、総流入者数約 12,000 人、来場者実数 5～6,000 人(うちゲイ・バイセクシュアル男性 60%程度)を集めた。クリニック検査キャンペーン受検者は、2008 年までの約 10 件/月から 2009 年以降は 3～4 倍となった。

クリニック検査キャンペーンを開始するにあたって、陽性者支援のための電話相談「POSP 電話相談(HIV サポートライン関西)」を設置した。地域で相談にかかわる専門職とのケースカンファレンス、新規陽性者を支援するプログラム「ひよっこクラブ」も展開した。これらは、ぶれいす東京の協力によるものである。

戦略研究後の事業化について

4 年間に凝縮して実施してきたこれらのプログラムを研究終了と共に中止することは、エイズ対策の大きな後退となる。このため、有用性や効果性のあるものを事業化することが検討された。平成 23 年度からの新規事業(図中)として、総合的に支援情報を提供する「HIV マップ」、NGO/NPO と保健所等検査担当者との合同研修会、保健所やクリニックとの協働による検査機会拡大と相談リソース等の紹介、HIV 陽性者のための電話相談等の支援である。いずれも検査を促進する上で大切な事業で、NGO/NPO の活動にその継続が委託されている。



ぷれいす東京 2010年度総会・活動報告会

総会・活動報告会が5月28日に豊島区立生活産業プラザにて行われました。活動報告会は参加者・スタッフ合わせて55名、活気あふれた部門報告や恒例のトークコーナーもあり、充実した会となりました。

総会では、東日本大震災などの諸々の社会情勢の変化もふまえて、今後のぷれいす東京のあり方にも触れ、厳しくも真摯な姿勢を確認する場となりました。

活動報告会では、恒例の秒単位で進行するリレー式部門報告があり、さまざまな活動を展開しているいきいきとした顔ぶれが続々と登場。リアリティあふれる報告が続きました。

後半のトークコーナーは、ゲストの阿古智子さん(早稲田大学国際教養学部准教授)から、「HIV/エイズからみえる日本と中国」と題して、急速に変化を遂げる中国の光と陰、政府と市民社会という、貴重なお話をいただきました。

今年も、様々なバックグラウンドを持った方々に多数ご参加いただきました。その中から5名の参加感想文をお届けします。

「市民社会って空気みたいなもの？」 吉田 真代

関西在住のため朝4時半に起床し、新幹線等を利用し、ホットラインのシフトと活動報告会に参加した。

活動報告会はいつもながらの充実ぶりで、特に5年に渡る「エイズ予防のための戦略研究」の成果は今後5年、10年と続いていくものだと感じた。

今年のゲスト講演は「HIV/エイズからみえる日本と中国」という意外にも感じる組み合わせだったが、阿古智子さんから聞く中国の現状は非常に興味深いものであった。



ゲストスピーカーの阿古さん

不衛生、知識欠如のため売血によりHIV感染、売血が村の主な産業であったため過半数の村民がHIVに感染している村。病気に対する強い偏見から、非常に生きづらい生活を強いられている感染者もあり、支援する側の団体もNGOなのに政府が関与し、その影響力が強い等、必要な支援が十分に届いているとは言い難いことに衝撃を受けた。阿古さんの知人がその現状を日本に伝えようとするだけで逮捕されてしまうことに呆れ、その人がその人らしい生活を送るための土台の大切さを強く感じた。中国には市民社会がないと言ってしまっただけでは何も解決しない。見守る以外に方法はないかもしれないが、中国の変化に注目していきたいと思う。

「HIVとの付き合い方」 TK(製薬会社勤務)

今回初めてぷれいす東京の活動報告会に参加をした。どんな活動を行っているのか?どんな雰囲気では進ん



活動報告会の会場

でいるのか?などあまり予想がつかなかった。参加者もホモセクシャルの方からヘテロセクシャル、ボランティアの方などさまざまな分野から参加されており、積極的な報告で大変興味深かった。同様に活動も多岐にわたっている事に驚いた。厚生労働省の研究班の一旦を担うものや、陽性者に対してのケアまで幅が広い。

正直活動報告会の時間は短く感じてしまった。おそらくぷれいす東京で活動されている方々もそう思っていると思う。一つ一つの奥が深いのでもう少し話を聞きたかったのが本音だ。HIVは様々なハードルが多岐にわたって存在していることを改めて実感した。心のケア、体のケア、就職のケアなど...



Gay Friends for AIDS (Gフレ)の報告

今回感じたことは、様々なハードルに対してどう立ち向かうかなのではなく、どううまく付き合っていくかが重要なことではないかと感じた。すぐに完治する薬が出てくるわけではないと思うので、活動を通じてうまく楽にHIVと付き合う環境になることが今私たちができる最善なのではないかと感じた。

「今年の活動報告会を通して自分が感じ・得たもの」

まさはる(HIV陽性)

数年ぶりに活動報告会に参加しました。今回、報告内容を拝聴しまして、率直に思ったことですが、環境的には、近年からのネット等の情報入手手段の多様化や、ネストの運営方法が変わったことや、3月の大震災など、特殊な事情があったにもかかわらず、ぷれいす東京を利用・アクセスされる方はそれほどまでに減ることなく、その存在意義はむしろ大きくなっているという印象を受けました。

また、トークコーナー「HIV/エイズからみえる日本と中国」の阿古智子さんのお話もとても有意義でした。たまたま、自分が中国に出張する機会ができ、中国に触れる度に考えさせられることも多くあったので、なおさらそう感じたのかもかもしれません。

阿古さんご自身で経験されたお話は、僕の出張経験からも、大いに共感した部分がありましたが、大部分は自分の知らない意外な中国の一面への驚きばかりで、大変濃い内容でした。

トークコーナーは活動報告書には載ってないその場でしか聞くことができない内容なので、毎年、企画が大変かと推察されますが可能な形で続けてほしいと個人的に思っています。

「報告会発、居酒屋行」

仲尾 唯治 (AIDS & Society 研究会議・監事)

池上さんや生島さんには、困ったときにはいつもお世話になりながら、肝心のぶれいすの名がつく会合やイベントに参加させて頂いたのは実は今回がはじめてです。

「(ウィーンで頼まれた)阿古さんに紹介するから、おいで」という生島さんのお誘いになり、お伺いした次第です。その阿古さんご登場の前には「ホットライン」にはじまり「研究事業」まで7つの部門報告があり、みなさんと熱く聞き入りながら会場の一体感を体験できました。休憩を挟んでの阿古さんのお話も、肩肘を張らず生島さんのリード宜しくトークショーのノリで(阿古さんごめんなさい)複雑な中国事情についてのおはなしをわかりやすくして頂きました。

国内累積発症者の2割が外国人です。現在主流のタイ・アフリカから徐々にインドネシア・ミャンマー・フィリピン、そして今後、中国・インド出身のHIV陽性外国人の増加が見込まれています。その意味で、先駆的な役割を果たして下さっている阿古さん、今後ともどうぞ宜しくお願いします。

でも、何と言ってもクライマックスは池上さんが「報告会の消化不良はぜひ呑み会で！」というお言葉で口火を切られた「70年安保世代ゆかりの居酒屋」での呑み会でした。熱く楽しい一時をどうもありがとうございました。

「組織力を活かしたソーシャルワーク実践」

ヴィクトル (VIRAG Viktor) (日本学術振興会 / 日本社会事業大学)

私は、数か月前にあるシンポジウムで職員の講演を聴いて、「これいいぞ」と思って、実は「勉強させて欲しい」という一方的な裏心をもってぶれいす東京にアプローチした人間にあたります。普段は文化等の違いを配慮した

ソーシャルワークとその教育に関する研究を進めているつもりですが、私からすれば、ぶれいす東京はまさしく多様性を踏まえた先駆的なソーシャルワーク実践に従事している団体です。

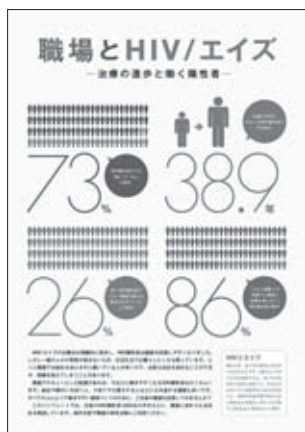
初めて出席させていただいた今回の活動報告会では、聞き慣れない医学の専門用語やLGBTコミュニティの特有の表現も何回か出てきて、スマートフォンで必死にウィキペディアを引きながら話に追いつこうとしていた場面もありましたが、全体的に何に最も圧倒されたかというところ、<組織力>というキーワードが浮かび上がります。日本の社会福祉についてあれこれ調べるようになってからは、様々な領域の多数の団体を見つけていますが、詳細な年間活動報告書を作成して、トーク・コーナーも含めた公開の活動報告会を開催して、まして良さそうな人を終了後すぐ来場者から探し出してこういった原稿を頼むなど、これほど丁寧にかつ素早く動ける組織は少ないと思います。特に、私が注目しているあらゆる社会的な少数者を対象としているNPOの中では、活動のここまでの徹底は残念ながら非常に珍しいのではないのでしょうか。確かに、医療関連の問題を扱うということで、他の分野と比べてある程度は助成金等も集まりやすいとも言えるかもしれませんが、活動内容の広がりや単純にそれだけに起因するものではない気がしました。

今後は、自分も何かしらの形で役に立てることを探りながら、こういった高く評価すべき活動の「味噌」を少しでも見習わせていただければと思っております。



相談部門の報告 (左から牧原、神原、生島)

パンフレット「職場とHIV/エイズ—治療の進歩と働く陽性者—」ができました！



主な内容：
[HIV / エイズの治療法と健康状態]
[HIV 陽性者の働き方と職場]
[職場のチェックポイント] など

このパンフレットは、2008～9年に実施した「HIV陽性者の生活と社会参加に関する調査」1203人の声をもとに、若林チヒロさん(埼玉県立大)の分担研究の一環として作成しました。陽性者が働く上で職場に求められる対応を解説したパンフレットです。職場でのちょっとした配慮で、今より働きやすくなる陽性者はたくさんいます。

このパンフレットが生まれたのは、相談活動のなかで聞く HIV陽性者の声を研

究班の会議のなかで共有したことに始まりました。障害者をオープンにした就職活動では、限られた時間で面接の担当者に自分の状況を伝えることが必要。そのために役立つツールが欲しいという声でした。

すでに、HIV陽性者自身の就職活動時の利用はもちろん、東京都や川崎市、保健所、エイズ治療ブロック拠点病院、障害者職業センター、都内ハローワーク、また、HIV陽性者のスピーカー活動時など周囲の労働者の理解促進などの場面でも活用がすすんでいます。

WebサイトからPDFのファイルをダウンロード可能です。ぜひ、ご活用ください。可能であれば、フィードバックを研究グループまでお知らせください。(報告：大槻、生島)

地域における HIV陽性者等支援のためのウェブサイト
<http://www.chiiki-shien.jp/>

「239人のHIV陽性者が体験した検査と告知」

～冊子の発行とシンポジウムの開催～

ぷれいす東京とジャンププラスが協働して(協賛:鳥居薬品)2009年より2年がかりで実施してきた、HIV検査と陽性告知に関する当事者参加型の調査プロジェクトが、冊子の発行と同名のシンポジウムの開催をもって完了となりました。

冊子「239人のHIV陽性者が体験した検査と告知」

HIV検査と陽性告知の場面は、多くの陽性者にとって、その後の生活や治療へと続く重要かつ繊細なターニングポイントです。では実際に、陽性者が検査前に持っていたHIVに対するイメージ、検査のきっかけや動機、陽性告知時の状況、その時に得た情報やメッセージ、告知担当者の対応はどのようなものだったのでしょうか? こういったことを、サービスの利用者・経験者である当事者の視点から明らかにしていくことを目的にこの調査プロジェクトが行われ、その結果をもとにこの冊子が制作されました。

このプロジェクトは、企画の段階から結果公表まで一貫して当事者である陽性者の視点で実施されました。調査目的、質問文、結果の解釈、冊子の編集まで、すべて陽性者が中心となって長期間の検討が重ねられました。

予防・検査・支援に携わる人にもご覧いただき、よりよい検査環境のため、陽性者理解のためにツールとして役立てていただきたいと願っています。

このプロジェクトで、協力をいただいた陽性者のみなさん、特に、2009年度に行われたインタビュー調査と、2010年度に行われたwebアンケート調査に協力をいただいた多くの方々にこの場を借りてお礼を申し上げます。

(報告:矢島)

冊子の入手方法の詳細はぷれいす東京ウェブサイトより
<http://www.ptokyo.com/publications/booklets.php>



冊子「239人のHIV陽性者が体験した検査と告知」

シンポジウム「239人のHIV陽性者が体験した検査と告知」

この調査の結果報告とともに、HIV検査と陽性告知について様々な視点から考える機会として、シンポジウム「239人のHIV陽性者が体験した検査と告知」が、5月1日に新宿文化センター(東京都新宿区)にて開催されました。医療、保健、行政、NGO、教育、学生、企業など様々な分野から119名の来場(出演者・スタッフ除く)がありました。

前半は、研究者としてこのプロジェクトに参加した井上氏から、この調査結果についての丁寧な報告がなされました。後半は、HIV検査・診療・支援の各分野からのゲストを交えての意見交換が行われました。一般医療機関での陽性告知の難しさ、首都圏とそれ以外の地域による事情の違い、検査を提供する側・受ける側ともに見られる陽性という結果を想定した準備の不足...。検査と告知をめぐる現状と課題が浮き彫りとなった会となりました。

プログラム(敬称略)

前半

「239人のHIV陽性者が体験した検査と告知」調査報告
井上洋士(放送大学 教授)

後半

「HIV検査と告知に関する意見交換」
山本 政弘(九州医療センター 感染症対策室長)
加藤 真吾(慶応義塾大学 専任講師)
池上 千寿子(ぷれいす東京 代表)
井上 洋士(放送大学 教授)
高久 陽介(JaNP+ 事務局長)

NLGR+

名古屋で毎年開催されている「NLGR」が、より幅広いセクシュアル・マイノリティー向けのイベント「NLGR+」としてリニューアル。今年は6月4日-5日に開催されました。HIV検査会や関連ブースは例年通り行われ、Gフレメンバーがブーススタッフとして参加しました。

「池田公園に集う人々」

sakura

Gフレのブースは今年も去年同様LIFE東海の皆さんと合同ブース。NLGRは手ぶらで来る人も多いので、手記集など持ち帰れなくてもブースの中で読めるようにし、さらに閲覧のみの資料として、出来たての活動報告書や各種冊子も用意しました。

NLGRというと名古屋のHIV検査イベント、という認識がありますが、実は名古屋だけでなく、静岡・長野・岐阜・三重などといった広範囲からMSMが来るイベントでもあります。またレズビアンやトランスジェンダー、

さらには検査会の補助スタッフとして某先生に連れてこられた看護系女子大生グループまで、実に様々なかたが来られて、普段なかなか手にすることの無い長期療養シリーズや研究関連の資料を熟読していく、そんな光景もよく見られました。ポジティブラインの利用者のかたから相談員への感謝のメッセージをお預かりすることもありました。

暑い中お越しくくださった皆様、またイベントスタッフの皆様、改めて御礼申し上げます。ありがとうございました。

部門報告

(2011年4～6月)



ホットライン

エイズ電話相談(ぶれいす東京および東京都委託)

相談実績報告

—ぶれいす東京エイズ電話相談—

	4月	5月	6月
日数(日)	4	5	4
総時間(時間)	16	20	16
相談員数(延べ)	5.5	6	5.5
相談件数(件)	29	58	40
うち(男性)	24	53	33
(女性)	5	5	7
(不明)	0	0	0
陽性者相談	0	1	1
要確認相談	0	0	0
1日平均(件)	7.3	10.6	11.9

—東京都夜間・休日エイズ電話相談—(委託)

	4月	5月	6月
日数(日)	14	13	12
総時間(時間)	42	39	36
相談員数(延べ)	34.5	32	32.5
相談件数(件)	197	212	211
うち(男性)	170	184	189
(女性)	27	28	21
(不明)	0	0	1
陽性者相談	1	0	0
要確認相談	0	0	0
1日平均(件)	14.1	16.3	17.6

ホットライン部門・活動状況 ()内は出席人数

4月	8日	東京都電話相談連絡会(3名)
	15日	個別ミーティング(2名)
	17日	世話人会(3名)
		スタッフミーティング(14名)
5月	1日	シンポジウム「239人のHIV陽性者が体験した検査と告知」(5名)
	7日	個別ミーティング(2名)
	13日	東京都電話相談連絡会(3名)
	15日	世話人会(6名)
		スタッフミーティング(17名)
		個別ミーティング(2名)
	28日	東京都ボランティア講習会「HIV陽性者の生活の質」(5名)
	28日	ぶれいす東京・活動報告会(9名)
6月	4日	個別ミーティング(2名)
	10日	東京都電話相談連絡会(3名)
	11日	個別ミーティング×3(6名)
	19日	世話人会(6名)
		スタッフミーティング(15名)

毎年4月は年度始めの月になるため、人事異動など環境が変化する時です。ホットラインでも影響を受けることがあります。

特に今年度は3月の東日本大震災もあり、シフトの人員確保が大変です。東京都の相談は、全体的に件数が少なめでした。逆にぶれいす東京は、徐々に相談件数が増えています。

(報告：佐藤)



バディ

陽性者のための直接ケア・派遣プログラム

バディ担当者ミーティング(4-6月実績)

4/7	中止	4/21	5人
5/7	2人	5/19	5人
6/2	中止	6/16	5人
個別ミーティング		4件	

利用者数

8カ所の医療機関に通院中、もしくは入院中の15名の方に23名のバディスタッフを派遣

活動内容(2011年6月末現在)

派遣継続中	21件
在宅訪問	14件
病室訪問	1件
派遣休止	5件
検討中	1件

4月～6月中の動き

・派遣調整 5件

8-10月のミーティング日程

午前ミーティング：偶数月第1木曜 11:00

奇数月第1土曜 11:00

8/4(木) 9/3(土) 10/6(木)

木曜は参加者がある場合のみ開催。事前にご連絡下さい。

午後ミーティング：毎月 第3木曜 18:30

8/18(木) 9/15(木) 10/20(木)

バディの現場から

バディ・フォローアップトレーニングを4月14日(木)に開催しました。今回は急な開催ではありましたが、視覚に障がいのある方の通所支援を踏まえ、「視覚に障がいのある方への支援」というテーマで、東京都視覚障害者生活支援センターの長岡雄一さんに講師をお願いしました。当日は担当予定のバディを含めた7名の参加があり、見えないとはどういうことから、当事者の心理状況、具体的な誘導の仕方まで色々と教えていただき、非常に有意義な研修会になりました。

(報告：牧原)



ネスト

陽性者とパートナー・家族のためのプログラム

ネスト・プログラム参加状況(2011年4-6月)

グループ・ミーティング

・新陽性者ピア・グループ・ミーティング(PGM)第58期(参加者7名)

4/9 4/23(修了)

・新陽性者ピア・グループ・ミーティング(PGM)第60期(参加者7名)

6/18

・陰性パートナー・ミーティング

4/2(9名) 6/4(6名)

・ミドル・ミーティング

4/9(15名) 5/14(14名) 6/11(10名)

・もめんの会(HIV/AIDSを支える母親の会)

4/19(4名)

学習会

・ベーシック講座「社会福祉制度」

4/20(4名)

・シリーズ「専門家と話そう」第7回「感染症の専門医と話そう」
ゲスト 村松崇さん(東京医科大学病院臨床検査医学科 医師)

6/24 参加者14名

トークサロン

・就職活動を報告しあう会

4/16(2名) 5/18(5名) 6/18(4名)

その他のミーティング(陽性者メンバー、ぶれいす東京スタッフほか)

・新陽性者PGMファシリテーター・ミーティング

4/27(5名、6名)

・web NEST運営委員会

4/22(2名、2名) 5/20(2名、2名) 6/17(2名、2名)

JaNP + /ぶれいす東京共同プロジェクト

冊子「239人のHIV陽性者が体験した検査と告知」を4月に発行し、同名のシンポジウムを5/1(日)に開催いたしました。詳しくは4ページをご覧ください。

ネスト・ニュースレター

4/15:4月号発行 5/16:5月号発行 6/6:6月号発行

シリーズ「専門家と話そう」新シリーズがはじまりました

本シリーズは、HIVをとりまくさまざまな専門家を招いてお話しいただく、少人数の学習会です。6月の「感染症の専門医と話そう」をはじめとして、7月には「弁護士と話そう」が開催されます。秋以降も多様なゲストをお迎えする予定です。どうぞご期待ください。(報告:はらだ)

Gay Friends for AIDS

ゲイによるゲイ・コミュニティ向け活動 <http://gf.ptokyo.com/>

Gay Friends for AIDS 電話相談

4月 8件(1日平均1.60件)

5月 12件(1日平均4.00件)

6月 16件(1日平均4.00件)

聴覚障がい者向けのメール相談対応

4月:1件 5月:0件 6月:1件

聴覚障がい者向けのメール相談をご利用の方へ

Gフレでは聴覚障がいの方向けにメール相談を実施していますが、返信はPCアドレスからの送信になるため、携帯からのメール相談に返信したところエラーとなる事例が発生しております。お手数ですがgf@ptokyo.comからのメールが受信できる設定にてご利用ください。

NLGRが“NLGR+”に!

6月の名古屋での恒例行事NLGRが今年は「NLGR+」としてリニューアル開催されました。とはいえHIV検査や予防啓発

ブースは従来通り。Gフレは昨年同様LIFE東海の皆さんと合同ブースで参加しました。

詳細は4ページをご覧ください。

(報告:sakura)



HIV陽性者への相談サービス

相談実績 2011年4~6月

	4月	5月	6月
電話による相談	208	188	196
対面による相談	40	53	38
E-mailによる相談等	110	102	184
うち新規相談	21	32	30
メール新規は含まず			

4~6月の新規相談者の属性(N=83)

陽性者: 52人(男性:49 女性:3)

パートナー: 14人(男性:8 女性:6)

家族: 5人(男性:1 女性:4)

専門家: 8人(男性:3 女性:5)

その他: 4人(男性:2 女性:2)

その他には判定保留、友人も含む

1~3月新規相談者の情報源(N=83)

WEB(携帯サイト、ホームページ、厚労省HP含)	37件	カウンセラー	1件
他の陽性者	11件	MSW	1件
冊子・パンフレット等	9件	パートナー	1件
以前から知っていた	5件	知人	1件
家族	3件	弁護士	1件
医師	2件	テレビ(ハートをつなごう)	1件
電話相談	2件	他のNPO	1件
看護師	1件	不明	6件

4~6月新規相談の内容

【ネスト・プログラムへの参加等】

- ・感染判明からブログを始めたが吐き出しきれないこともありミーティングに参加希望。
- ・PGM参加希望と周囲への通知について相談。
- ・感染がわかって数年。行き詰まりを感じて相談。トークサロン参加希望。
- ・利用登録で来所。資料閲覧を希望。
- ・先日陽性と判った。友人からミドルミーティングを勧められ利用登録。

【ぶれいす東京への参加、サービス利用】

- ・きょうだいからぶれいすのことを紹介してもらって連絡を試してみた。
- ・LIFE東海から紹介してもらって連絡をした。〔東海〕
- ・知人に紹介されたので面談を希望。
- ・病院からもらったパンフレットにフリーダイヤルとあったので連絡した。〔東海〕
- ・学校を卒業し就職活動中。他陽性者にぶれいすを紹介してもらった。
- ・今から10年前に感染を知った。ぶれいすに来所してみたかった。〔北海道/東北〕
- ・以前きょうだいが相談したその本人から。面談の勇気はないが電話相談はしてみようと思う。
- ・就職活動をしていて行政の人からの勧めもあり面談を希望。

- ・主治医に一人で悩んでいないで連絡してみたらと紹介を受けた。今後の恋愛相談。

【検査や告知】

- ・(夫より)妊産婦検診で妻が HIV と言われた。確認検査にて陽性の割合はどれくらいか。
- ・(パートナーより)有料自主検査を受けたところパートナーの感染が判明。今後どうしたらよいか。
- ・治験のバイトをするために血液検査をしたら陽性と判明。結果が信じられない。
- ・数週間前にクリニックの迅速で陽性と判明。本日拠点病院に行ってきた SW の面接を受けてきた。
- ・(パートナーより)本人から通知をうけたため、医療のことや今後のことについて知りたい。
- ・家族への通知や職場のプライバシー保護など含めた告知直後の不安。
- ・尖圭コンジローマで治療をしていて、ついでに HIV検査を行い感染が判明した。
- ・新しい恋人ができたので検査に行ったら陽性だった。相手に検査の結果は言えない。
- ・昨日陽性とわかったばかり。自分では感染した理由がわからないためやりきれない。
- ・1ヶ月くらい前に陽性者と SEX をした。いま梅毒の症状が出ているがどこで受検したらいいか。
- ・イライザ法で陽性と判明。数日後に確認検査の結果を受け取る予定だが一人で行く勇気がない。

【人間関係】

- ・妻から HIV を理由に離婚を迫られた。このようなことは法的に成り立つのだろうか。
- ・(パートナーより)コンドームをしていれば問題ないと言われたが自分自身の感染が不安。〔東海〕
- ・(パートナーより)本人のメンタルの波が大きく、行き詰まりを感じている。
- ・(きょうだいより)本人の病気のことは誰にも相談できずにつらかった。
- ・(父より)息子の永逝の連絡
- ・(妻より)夫の面談同席 いまは夫を信じようと思う。
- ・数ヶ月前に感染判明。所持持ちだが他陽性者で離婚するケースはあるか。
- ・SEX相手に対する通知とセーフターSEXについてききたい。〔中国/四国〕
- ・感染判明から数年経っている。おつきあい候補の人がいるが通知に困っている。〔九州/沖縄〕
- ・おつきあい候補の人から通知を受けた。いままで周囲にいなかったため不安。
- ・(パートナーより)結婚を考えたい。性交渉ではどのようにするとうつらないか。〔九州/沖縄〕
- ・きょうだいが数年前に発症してわかった。介護に追われていたが現在は施設入所中。

【心理的なこと】

- ・(パートナーより)本人の浮気で情緒不安定。カウンセリングを受けたいと思っている。
- ・きょうだいがエイズ。実家に帰ってきてからは奇行が目立つ。どうしたらいいか。
- ・(パートナーより)相手が陽性と判って自暴自棄になっているらしい。
- ・10年前にぶれいすの紹介を受けているので連絡した。メンタル・クリニックにも通っている。
- ・陽性になってから、これからの人付き合いをどうしていいかわからない。〔東海〕

- ・エイズは治らない病気だから薬を飲んでも無駄だと思う。死にたい。
- ・病気のことを上司に相談しづらく一度退職。復職を求められ元の職場に勤めているがづらい。
- ・陽性と判ってから鬱を発症。障害者雇用での就労や障害年金受給について悩んでいる。

【医療など】

- ・(夫より)妻が外国人で処方を受けるため定期的に帰国している。日本で治療を受けることができないか。
- ・海外留学するにあたり、留学先での通院について相談したい。
- ・転居したばかりのため、自宅から通院可能な拠点病院を教えてください。
- ・歯科受診できるところを教えてください。
- ・出所後の通院先について相談。

【生活や福祉】

- ・家族と連名で仕事場と家を購入予定。団体信用組合の審査に通るか不安。
- ・国保から社会保険に切り替えたときに会社にバレてしまうのではないかと不安。
- ・身体障害者手帳を取得するにあたって同居者に知られてしまうことはあるか。
- ・服薬にあたり主治医から毎月4～5万円かかると言われたがネットでみた情報と異なっていた。
- ・陽性と判明してから仕事にも行けなくなってしまった。収入が途絶えてしまったので生活をどうしたらいいか。〔中国/四国〕
- ・感染判明以前より終身保険に入っているが、告知義務違反が生じることはあるか。
- ・(妻より)脳症で在宅療養を検討。これからのことについて。
- ・生命保険のことを聞きたい。〔近畿〕
- ・(妻より)夫が数年前に発症し脳症となった。これからの介護をどうしたらいいか。
- ・知人の海外帰国支援についての相談。

【就労】

- ・就職活動やメンタル面についての相談。
- ・(人事より)会社で陽性と判った人がいるが今後の就労について問題があるかどうか。
- ・(パートナーより)本人の障害者控除申請から会社側に病気のことが判明したため転職を検討中。障害者枠とはどのようなものか。
- ・拘束時間の長い派遣業務のため、障害者枠での転職を希望。
- ・就職活動しているがうまくいかない。障害者雇用でいくべきか迷っている。
- ・職場が障害児施設のため怪我が絶えない。他への感染が心配。
- ・きょうだいが休職中。手帳取得と言われたが就職に不利なことはあるか。
- ・失業保険で生活していたが苦しくなってきた。就職活動についての相談。
- ・職場から休職理由の病名を書けと言われて理不尽だと思う。弁護士を紹介してほしい。

【専門家】

- ・(MSWより)地方に転院予定の人にボランティアで付き添い依頼の問い合わせ。
- ・(生保担当者より)内部障害者更生施設から他施設への転入相談。
- ・(少年院のカウンセラーより)入所中のことや出所してから

の相談について問い合わせ。

- ・(MSWより)海外への帰国支援について相談。
- ・(MSWより)女性のSNSはないかと相談された。情報があったら教えてほしい。〔近畿〕
- ・(ハローワーク 障害担当者へ)就労支援ネットワークを広げるため訪問。
- ・(保健師より)窓口来所の人が陽性者の支援についてと言っている。〔中国/四国〕。

【その他】

- ・(パートナーより)洋服を着た状態で感染することはある

のか。

- ・(パートナーより)コンドームが外れていたことがあったため自分の感染が不安。
- ・(パートナーより)風邪みたいな症状があったため自分自身の感染が不安。
- ・(上司より)社員の家族がネットの検査キットで陽性と判明したらしい。そもそもそういったものは信用できるのか。
- ・(パートナーより)相手が海外で陽性と判明。渡航先で会うためにできるだけ情報がほしい。

(報告: 牧原/福原/生島/神原)

新人ボランティア合同研修の開催について

ぶれいす東京では、HIV/AIDSに関する予防とケアに取り組んでいます。社会におけるHIV/AIDSに対する関心が薄れるなか、HIV陽性だとわかる人は増えており、それ以外にも感染していないか不安な人、HIV/AIDSについて知りたい人、身近な人が陽性だと分かった人など様々な人がぶれいす東京の提供するサービスを必要としています。しかし、対応にあたってのスタッフが慢性的に不足しています。

性別、年齢、セクシュアリティ、知識や経験の有無は問いません。HIV/AIDSに関するボランティアとして、自分のできることを、できる範囲で、わたしたちと一緒に活動してみませんか？

今回募集するのは下記のボランティアです。

- ・HIV陽性者のサポート活動「パディ」
- ・エイズ電話相談の相談活動「ホットライン」
- ・オトナの女性向け予防啓発活動「Peer Empowerment Program」
- ・ゲイ向け予防啓発活動「Gay Friends for AIDS」
- ・事務作業の補助他

まずオリエンテーションにご参加ください。

ボランティアとして[活動をする/しない]は、オリエンテーション終了後に決めていただいでかまいません。

活動する場合、3日間の研修終了後、必ず1年間は活動できることが参加条件となります。

オリエンテーション

日時：2011年9月10日(土)午後2時～午後4時
(受付は午後1時45分～)

参加希望の方は必ず事前にメールか電話で事務所までお申し込み下さい。

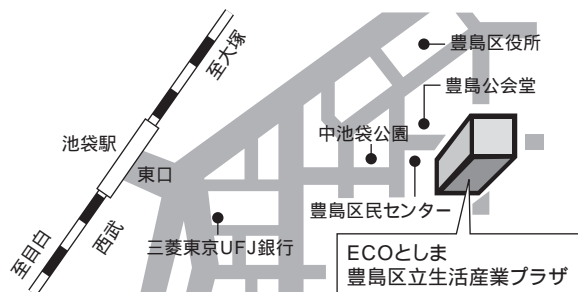
場所：豊島区立生活産業プラザ 8F 多目的ホール

(豊島区東池袋1-20-15)

JR池袋駅東口より徒歩7分程度)

当日の連絡先：ぶれいす東京携帯:

080-5387-8341(13:00～)



研修日程

9月19日(月・祝) 9月23日(金・祝)

9月25日(日)の3日間を予定。

会場や時間等の詳細はオリエンテーションで案内いたします。

(各日10:00～17:00を予定)

研修に参加したいけれど、オリエンテーションに参加できない方は一度ご相談下さい。

[問い合わせ・お申し込み]

ぶれいす東京 担当：牧原

TEL 03-3361-8964

(受付時間 平日12:00～19:00)

E-mail: info@ptokyo.com

編集後記

- ・スイカが好きで、ほぼ毎日食べてます！美味しく汗もひくので一石二鳥。マイナーですが「すいか」というドラマも好きでした。(こんどう)
- ・スーパーで買った様々な茶葉を煮だし、冷やして楽しむのがマイブーム。これって、自分の生活の基礎を充実させたいという気持ちのあらわれかも。オススメがあればぜひお知らせください。(いくしま)
- ・最近、少しずつ身の回りの整理をしています。3年着なかつた服はたぶん一生着ないと決め、なかなか捨てられたなつたMDコンボ(ってわかります?)に粗大ごみシールは張り、読み終えた本も...といった具合。モノが減ると気持ちも軽くなり、何か新しいことにチャレンジする軽やかさが生まれるとか。何かって何だろう?(やじま)

編集・発行：特定非営利活動法人 ぶれいす東京

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-11-5 三幸ハイツ403

TEL: 03-3361-8964(平日12～19時)

FAX: 03-3361-8835

E-mail: info@ptokyo.com

ぶれいす東京 HP: <http://www.ptokyo.com/>

Gay Friends for AIDS: <http://gf.ptokyo.com/>

web NEST: <http://web-nest.ptokyo.com/>

Twitter @placetokyo (<http://twitter.com/placetokyo>)